

無線傍受のすゝめ

乱高下を繰り返す関税税率をみて、これが定期預金金利だったらよいのにと感じている方は少なくないでしょう。明日は180度違う世の中になっても不思議でない今、社会の動きについて行くには**アンテナを高く張る**必要があります。かく言う私も最近アンテナを購入しました（写真）。航空管制官とパイロットの交信、航空無線を傍受するためです。「無線傍



写真 愛用の気象計（左）と一緒に

受」という四文字熟語には何か怪しいことをしている感が満載ですが、聴取した内容を他人に漏らさず自分の胸中に納めておく限り、電波法に抵触しない「真っ当な」行為です。

管制官とパイロットの交信は日本人同士であってもすべて英語で行われます。飛行機の高度、速度、針路、着陸予定の滑走路番号など、数字情報が主ですが、聴き取り間違いを防ぐための独特の言いまわし（フォネティックコード）があり、管制官の指示をパイロットが直ぐに復唱している様子など、麻酔の臨床に応用できることも多数あります。伝えるべきことだけを簡潔に伝え、不要なことは一切言わない交信の様子は小気味よく感じます。

Flightradar24 画面を見ながら交信を聴くと、管制官に言われたとおりに（当たり前ですが）当該機が変針し高度や速度を変えていく様子をリアルタイムで確認でき、翌日に挿管困難症例の麻酔に当た

っていても寝る間も忘れるほどです。もっぱら羽田の離発着機の交信を傍受しているので、標準的な出発あるいは到着コース（SID/STAR）*も馴染み深いものになりました。飛行機が普段と違う経路で飛んでいるときは航路上に発達した積乱雲があることも多く、すかさず気象庁のレーダー画面も参照すると興味は倍増です。中学校でアルファベットを習って以来半世紀以上の歳月が流れましたが、英語のヒアリングがこんなにも楽しいものか！と初めて思いました。

研修医や看護師に指示や依頼をしても「糠に釘」で何の返事もないことに日々寂しさを感じている貴方・貴女に、無線傍受を心からお勧めする次第です。

（木山 秀哉）

SID : standard instrument departure 標準計器
出発方式

STAR : standard terminal arrival route 標準到着
経路